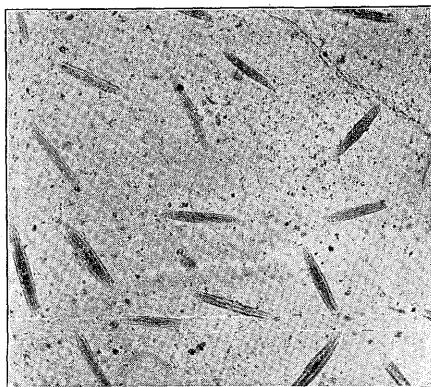


ニ」ニナツテハナラヌ、一旦定メタ學名ガ一旦記相文ヲ添テ出サレタ以上他ニ其レヨリ以前ニ記相文ヲ添ヘテ出シタ同名ノ別種ガナイ限り其名ハ valid デアリ 動カスベカラザル名トナル。從テはりぎりノ學名トシテ T 氏ガ一旦 *Acer pictum* ヲ出シタ以上翌年ニ之ヲ *Acer septemlobum* ニ改メタカラトテ最早取返シハツカナイノデアル、即チ *Acer pictum* ヘ新ニ *Acer septemlobum* ナル異名ヲ加ヘタ行爲トナルノデアル、T 氏ノ頃許サレタカラトテ今日デハ立派ニ萬國命名規則デ拘束サレルモノニナツテ居ル、同様ノ例ヲ尙ホ手近ニ求メルト T 氏ハ 1784 年ニ *Flora Japonica* p. 143 ニうばゆりノ學名ヲ *Hemerocallis cordata* トシテ記相文ヲ添ヘテ出版シテ置イタガ 1794 年ニ *Transaction of the Linnæan Society* Volume II p. 332 ニハ *Lilium cordifolium* ト改メテ出シ異名ニ *Hemerocallis cordata* ヲ加ヘテ居ル、然シ種名 *cordata* ガ一旦記相文ト共ニ出タ以上ハ其ヲ *Lilium* ニ移セバ *Lilium cordatum* WILSON トナリ *Lilium cordifolium* THUNBERG ガ異名ニナル、同様ニ *Cardiocrinum* 屬ニ移スナラ *Cardiocrinum cordatum* MAKINO トナツテ *C. cordifolium* ニハナラヌノデアル、斯ル譯合ノモノデアルカラ *Acer pictum* ノ出版ヲ空想的ニ印刷屋ノ誤ダナドト片附ケタナラ其レコソ小泉君ノ言ヲ借リテ云ヘバ「植物分類學ハ學問デナクテ感情ノ學問ニナル」ノデアル、我邦ニハ今モ尙ホ頑強ニ萬國命名規則ヲ無視スル學者ガアル其根本ノ考ノ當否ハ暫ク別トシテモ學界ヲ混亂セシムル異名ヲ殖ス丈ケデ自家撞着ノ結果ニ終ルカラ識者ハ密カニ其等人々ノ反省ヲ切望シテ居ル、兎モ角はりぎりノ學名ハ *Acer pictum* THUNBERG ガ一番古クテ今ノ分類法デハ之ヲ *Kalopanax* ニ移シテ *Kalopanax pictum* (THUNBERG) NAKAI トナル、THUNBERG 氏ガ葉ノ互生スルはりぎりヲかへデ屬ニシタノハドウカト思フ鑑定デアル、又いたやかへデノ學名ハ *Acer pictum* THUNBERG デハイカソコトニナルカラ其次ニ最モ古イ valid name ナル *Acer mono* MAXIMOWICZ ガ復活スル次第デアル。

(中井猛之進)

## ○東針晶ノ實驗材料



たにたでノ葉ノ灰像中ニ見ラレル針狀結晶群

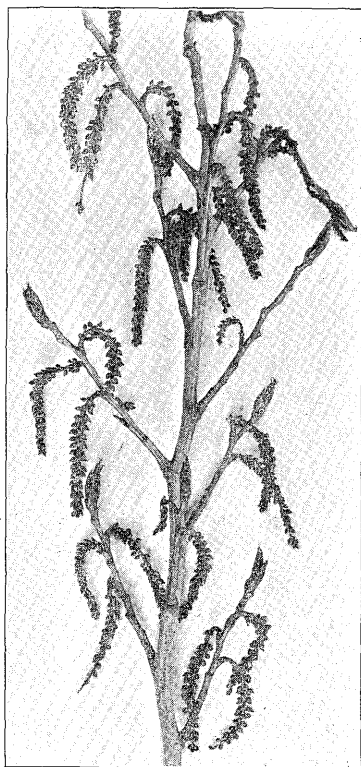
柳葉菜科ニ屬スル植物、假令ヘバあかばなノ類ヤみづたまさう、たにたで、みやまたにたでノ如キ *Circæa* 屬ノモノ、葉ヲるーペデ透過光線デ見ルト一定ノ規律正シイ東針晶(針狀結晶群)ガ認メラレル。尤モ此ノ結晶群ハ細カイカラ、lupe デ見タ丈デハ或ハ單晶ノ様ニモ見ヘヌデモナイガ、之ヲ燒イテ所謂「灰像」ニシテ顯微鏡下ニ視ヘバ一視野ニ數個ノ東針晶ヲ見ル事が出來ル。

余ハ曾テひんじもヲ用ヒテ容易ニ東針晶ヲ認メ得ル事ヲ本誌第 V 卷 I 號デ木村康一氏ト共同デ述ベタガ、茲ニ報告スルモノ

ハ材料ガ何處デデモ容易ニ得ラレルノデアルカラ、實驗材料トシテハ便利デアル。  
 ツモ、先人ノ糟粕ヲ金科玉條トスル教科書ニハ單子葉植物バカリガ東針晶ノ所有者トシ  
 擧ゲラレテ居ルガ、雙子葉植物ニモ在ル事ハ勿論デつりふねさうノ莖ヤ、あぢさいノ葉ナド  
 ニモ良ク見ラレルモノデアル。然シ之等ノ場合ニハ切片ヲ作ル必要ガアルガ、ひんじもダノ  
 上記ノモノナドデハ其儘見ラレル所ガ輕便デアルカラ 御賛成ノ方ハ御利用ヲ願ヒタイ。此  
 外柳葉菜科ノ他ノ屬ニモ同様ナモノガ相當ニアル。（久内清孝）

## ○西洋はこやなぎノ花

西洋はこやなぎ (*Populus nigra* L. var. *italica* DUR.) ハ内地デ花ヲ見タ人ガ少イ様ニ  
 聞イタ様ニ記憶スル。然ル處、本年四月中旬、横濱ノ徳永家次氏ハ同市磯子區市電車庫構内  
 デ其果實ヲ有スル標本ヲ得テ余ニ示サレタ、夫レ  
 ガ此寫眞デアル。其後余ハ同市内ノ各處ニ於ケル  
 多クノ個體ニ於テ、マタ東京市大森區ノ一樹ニ於  
 テ同様果實ヲ有スル枝ヲ得タ。以上ノ事實ニ依  
 リ、内地デモ樹齡十年位ノ木ニハ花ヲ著ケ其多ク  
 ハ雌本デアル事ガ判明シタ。然シテ挿木デ増殖シ  
 ツ、アル實情ニ鑑ミ内地ノ西洋はこやなぎハ多ク  
 雌本デハナカラウカト考ヘタガ、理學博士小倉謙  
 氏ハ余等ト前後シテ、東京帝國大學醫學部附屬病  
 院耳鼻科病室ノ附近ニ於テ、雄本ヲ發見サレタカ  
 ラ、日本ニハ ♀♂ 共存在スルコトガ判ツタ。小  
 倉博士ハ雄花ヲ次ノ如ク觀察サレタ「雄花序は始  
 め苞より出し時眞赤（これは葯が眞赤なるため）  
 なる塊にて蟲癭か何かと思ひ居りしに段々伸び始  
 めて花序たるを知りたる次第に候、葯は花粉の出  
 る時まで眞赤」（通信ノ一節）



西洋はこやなぎノ雌本

マタ楊柳専門ノ東北帝大ノ木村有香學士ニ照會  
 シタラ同氏ヨリ「仙臺地方ニ♀モ♂モ栽植シテイ  
 マス、タマシ♀ハマレデス、樹姿コトナル爲遠望  
 シテ♀カ合カワカリマス、只今開花(4月19日)シテ  
 ハ居リマセンガモウソロソロ咲クデセウ尙小生神  
 戸ニ於テモコノ植物ノ♀ヲミタコトヲ記憶シマス  
 云々」ナル回答ニ接シタカラ日本ニハ兩方アル事  
 ガ確實ニナツタ。然シ、余ハ果實ヲ見タ丈デ花ヲ觀察シ得ナカツタノハ残念デアル。果實ヲ  
 有スル花穂ハ總テ綠色デ、其長サ約 3 cm. バカリデアツテ、附近ニ雄本ノ無い爲メカ多ク  
 ハ稔熟スル能ハザルモノ、如ク、花序ノマ、脱落シテ居ルノガ多カツタ。